

# 先進事例を見る

全国中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考となるよう、知識や経験、ノウハウの移転・活用につなげることを目的に掲げ、都道府県中央会と連携し、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について、調査・分析、収集・普及を行っており、収集した事例を全国中央会のホームページ(組合事例検索システム)で公開しています。

今回は令和元年度に行った調査のうち、「組合青年部を中心とした新規事業の取組」についての事例をご紹介します。

## 木曽漆器工業協同組合

— 人々が集う街づくりを目指し、木曽漆器産地の活性化へ —

住 所	〒399-6302 長野県塩尻市大字木曽平沢2272-7		
U R L	<a href="http://kiso.shikkikumiai.com">http://kiso.shikkikumiai.com</a>		
設 立	昭和24年7月	主 な 業 種	漆器業及び関連木工業
組 合 員 数	117人	出 資 金	18,695千円

### ■背景・目的

木曽漆器工業協同組合青年部ビジョン「檜川・工芸の人々が集う街～作り手が住みたくなる街を目指して～」の事業の実現化を目指し、平成28年度から3年間、長野県伝統的工芸品産業魅力アップ・創造事業の産地活性化プロジェクト事業を活用して木曽漆器ブランド化に向けた様々な事業に取り組むこととなった。

### ■取組みの手法と内容

長野県伝統的工芸品産業魅力アップ・創造事業の産地活性化プロジェクト事業を活用し、組合青年部、組合、組合事務局、筑波大学(3先生、学生)、塩尻市、長野県、長野県中小企業団体中央会が連携してプロジェクト推進体制の構築をし、木曽漆器ブランド化のため以下の事業を実施した。

新たな木曽ブランドの構築では本プロジェクトの目指す方向性を共有し、木曽漆器のプロモーション動画を作成した。木曽漆器の新たなデザインの開発では木曽ヒノキと信州産の漆を使用、木曽漆器のブランド価値を高めるため、箸のデザイン開発を行った。「器の蔵」器と食のコラボレーションによる情報発信では、「かしだしっき」を制作した。空き家の活用、改修による活動・レジデンス拠点の整備では、青年部拠点「二四重」の整備と、レジデンス拠点の宿泊場の整備を行った。若手作家の招聘による創作活動移住交流促進では、現代芸術家、筑波大学生等のレジデンス活動の支援を行った。

今後の活動としては、青年部拠点の有効活用とレジデンスの実施、情報発信のツールとして「プロモーション映像」「かしだしっき」「プロモーション用箸」を活用した具体的な情報発信を行うことである。

### ■成果とその要因

木曽漆器を情報発信するための青年部の拠点も整備され、情報発信のツールとして「プロモーション映像」、「かしだしっき」、「プロモーション用箸」等の準備ができた。

事業推進の成功要因は、組合内部の組織だけでなく、上記に挙げた多くの関係機関と連携できたことである。



ブランド構築ワークショップ



かした漆器を活用した器と食のワークショップ



Point

伝統的工芸品の産地の次代を担う青年部活動の活発さや情熱、地元市町村を含む関係機関の連携による事業推進が大切である。